
一次小説、予告風

舞台裏の黒衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一次小説、予告風

【Nコード】

N5096Y

【作者名】

舞台裏の黒衣

【あらすじ】

一次小説、試験作品です。

これをお読みになられた方、よろしければ遠慮のない感想を下さると嬉しいです。

予告風となっております。また、この作品の名前、地名ともに仮定ですので、ご了承ください。

（前書き）

二次規制に備えて、一次？作品をとりあえず構想してみました。
予告風なので短いですが、お読みになって下さると嬉しいです。
それでは、どうぞ。

始まりはいつも突然に

「……………」

どんな意味を持っているか、解らずとも

「……………」
「おい、こんな所で寝てると風邪引くですよ」

きっとそれは、誰にでも訪れる

「嫌だよ……………なんでこんな……………。誰か、誰かわたしを」

それは偶然か、それとも必然か

「私は例え異常であろうとも……………受け入れる事ができる者でありたいと思うよ」

それはきつと誰にも解らない

「一緒に、生きて逝こう………“銀”」

様々な者達が住まう世界。それらは並行して存在している。
それぞれ独立した世界が幾つもあるこの多元世界で、昔ある戦争
が起きた。

それは世界の根本とでもいうべき精霊樹　それを奪い合うとい
う、まさに世界を巡る戦争と言っても過言ではないものであった。

精霊樹とはその名の通り世界に精霊を産み落とす、精霊にとって
はまさに母の様なもの。純粹な願いを元に生まれる精霊達はその願
いの元、様々な者を助ける良き隣人で在った。

そして精霊とは得てして強大な力を持つ事が多く、中でも彼ら特
有の技術　精霊術はあまりにも強力で、それを欲しがる存在は後
を絶たなかった。

やがては独占しようと互いに傷つけあい、殺しあう者達。戦果は
さらに拡大していき、やがて世界全体を揺るがす破壊の波……世壊
震動しんどうが起きてしまう事となる。

世界を傷つける世壊震動の被害により、様々な世界は少なからず
被害を受ける。中でも一番被害を受けたのは世界の根本　精霊樹
であった。

その事により、精霊たちが怒り狂うのはある意味当然だったのか
もしれない。

今まで良き隣人として存在していた精霊たち。彼らが敵になった事により様々な世界は皮肉にも、その時初めて一つとなりその脅威に立ち向かう。

だがあまりにも強大な力を持つ精霊たちを相手に、彼らは成すすべもなく敗れていった。世壊震の影響により戦力がまともに揃えられなかった事もあるのだろう。まさにそれは自業自得とも言うべき有様であった。

そんな時、多種族の内の一つ　人間があるものの発明に成功する。

対精霊魔法。後に魔法と呼ばれる事になる技術である。世界に満ちるマナを自身に取り込み、魔力へと変換。それを魔法として放つまったく新しい技術。

今までの兵器を凌駕する破壊をもたらすその技術により、精霊たちとどうにか互角に戦えるようになった彼らと精霊の戦いはますます激化の一步を辿る。

命が消えていく。様々な物が壊れ、滅ぼされ、世界は死んでいく。やがて死んでいった世界は一つの願いを持つ……“世界を壊して”と。

争いばかりを続ける世界を。欲望にまみれた世界を。自分たちを殺した世界を

そしてその望みの元生まれるのは一柱の精霊。全てを壊す“世壊”と呼ばれた存在。

その存在の登場により全ての種族は手を取り合う事となる。それはまさしく、全て平等に壊す存在だったのだ。

圧倒的な世壊に対抗して、精霊が、人間が、エルフが、獣人が、

天使が、悪魔が。文字通りその命を削り作り出した存在があつた。それは世壊と互角の戦いを繰り広げ、その影響によって様々な命が死んでいった。

その最後は世壊と相打ちになり、生命^{マナ}力の粒子となって消えて逝ったとされているが……その詳細は解っていない。

「えー、というのが今から数百年前に起きた世界戦争です。皆さんは勿論知っていますよね？何せ……」

暖かな陽気に満ちる教室。教壇に立つ教師が黒板に書かれた要点を更に言葉で説明している、そんな風景。

その中に、一人うつらうつらと舟をこいでいる一人の少年の姿があつた。所々跳ねた髪型と、真白の髪が目立つ少年である。

彼は教師が紡ぐ言葉を子守唄変わりに、優雅な昼寝の真つ最中であつた。教室中に満ちる陽気のせいもあるのかもしれない。

その様子を見て何人かはくすくすと微笑を浮かべ、何人かは呆れた様な笑いを。そして大半は嘲笑を浮かべる。

彼はこの魔法学校に置いて様々な意味で有名な存在だった。

曰く魔法が使えない。曰く教師にため口、並びに授業は居眠り。

曰く美少女をばべらす鬼畜野郎などなど。悪い意味しか無い様な気がするが気のせいである。おそらく、きつと。

そんな彼の様子に気づいたのか、教団にて熱弁を振るっていた教師が口を閉ざし、その手に力を。魔力を集め、魔法を生成し始める。

それは魔法によって作られた人工的な雷。紫色の、周囲には紫電として恐れられている物を手に集めたまま振りかぶり、躊躇なく放

っ！

周りからは悲鳴や怒号、なぜか歓声が沸き起こり一瞬にして騒然とした雰囲気となる中、紫電は目標へと突き進み 唐突に掻き消えた。

しん と静まり返る教室の中、教師の溜息と一人分の欠伸が響く。

「御神本^{みかもと} 銀。授業中は居眠り禁止とあれほど言いましたよね？」

「くあゝっ……だからと言って生徒に対していきなり魔法は無いと思うんだが、フォルテシア・エクレール魔導師殿？」

「…ソレを完璧に制御したうえ、霧散させたのはどこの誰ですか？」

「それはすまない。なにせこれしか取り柄が無いもので」

「……これ以上此处で会話しても意味がありませんね。放課後、職員室まで来るように」

りょーかい。と適当な返事を返しつつ再び眠りにつく銀を見て、フォルテシアは盛大に溜息を吐いた後授業の続きに戻る。それはこの教室においていつも通りの光景なのか、それ以上騒ぎは起きずに授業は進んでいく。

ここは多元世界の一つ、ミッドガイアにある魔法学校。

正式名称【私立魔法養成学園エスティア】

この場所を中心に、物語は始まっていく……

この学園を中心に、平和？な日常を繰り広げる生徒たち。

「授業……ああ、何て面倒な響きなんだろう」
学園で一、二を争う問題児、御神本 銀。

「ギン」。真面目に授業受けないと留年なのですよー！」
その良き相棒である妖精、御神本 蒼。パートナー
あおい

「銀……あまり不真面目過ぎるとお父さんに迷惑掛っちゃうの」
銀に依存する少女、御神本 紅葉。くれは

時には大事件も起きたりするけど、友情パワー（笑）で一撃全壊！

「ちょっと！ 無視するにしても露骨すぎるわよ！？」
天使と人間のハーフ、レイカ・ソレイユ。

「何でかな？ 私、あなたの傍に居ると衝動が収まっちゃうの」
上位悪魔、夢魔の一族、月詠 神楽。つくよみ
かぐら

「……じゅるり。はっ！？ ち、違うよ？美味しそうだなんて思っ
てないよ！？」

物静かなドジっ子少女、ライカ・エクレール。

「ううゝ……才能無いってはっきり言わないでよ意地悪ー！」
優秀な母と妹を持つ明るい少女、アルミナ・エクレール。

様々な障害を、試練を、ぶち抜け星落し！
スターフオール

「うん。僕は本が好きだよ……色んな知識を与えてくれるし、なにより読んでいると落ち着くからね」

草食系を装った食いまくりのリア獣野郎、クノー・アスガイア「
えっ、何でそんな紹介文！？」

「そこまでだ！ ここでの私闘は禁止されている。大人しく生徒会
室まで来てもらおう」

生真面目な生徒会役員でマザコン、真黒 まぐろ 黒輔 くろすけ「待て！ なんだその
名前は！？」

彼らが起こすドタバタな学園生活は、一体どこへ向かうのだろう
か！

「ちょっと宇宙で星落してくるの」

「お前が言つと冗談に聞こえないからな？」

どこかで見た事ある？ いいえ、気のせいです。そんなオリジナ

ルストーリーっぽい物語。遂に開幕

未定！

「言っと思ったよ」

これは予告風味の試験版一次作品です。実在する団体、キャラ、その他色々とはおそらく関係ありませんので、ご了承ください。

「あれ、うちはどうなってるん？」

「ごめん。まだ名前決まってるない。」

「な、なんやて……！？」

（後書き）

ここまでお読みくださり、ありがとうございます。

遠慮ないご意見、ご感想を心よりお待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5096y/>

一次小説、予告風

2011年11月17日20時31分発行